

L'art magique の一年間 00LF-1072 佐藤美紀

私は大学4年生の最後のゼミで、美術に関する授業を受けたいと強く思っていた。3年生のときにはそれがなかったため、少しがっかりした。なので、4年次の巖谷先生のゼミでは美術も扱うと聞いて、私はとても嬉しかった。

L'art magique と呼ばれるこの4年ゼミは、ほかとは違った独特の空気があるらしいと、私は友達から聞いていた。初日、わくわくしながら授業に出席した。見たことがある人もいれば、全然知らない人もいる。なかには自分の個性を発揮している人たちもいて、異様な雰囲気や空気が教室に流れていた。巖谷先生が入ってこられたとき、その教室のなかが非日常的な世界になった感じがした。「これからどんなことを学べるんだろう？」と、胸がドキドキしたのを今でもおぼえている。

「シュルレアリスム」という言葉を、私はなんとなくしか知らなかった。今、私たちがよく目にする現代美術とつながったもので、ヨーロッパ、とくにフランスあたりで生まれたもの……ぐらいにしか知らなかった。先生がシュルレアリスムについて最初に教えてくださったことは、Objet と Chose の違いだった。私は、あるものを見て芸術的なものとそうでないものを区別して感じることはできたが、なぜそう感じてしまうのかがわからなかった。ところが、Objet は何も意味を持たないものだからこそ、芸術作品になりうるということがわかった。

また、次の授業のときには Collage について教えてくださった。全く無関係なものを貼りあわせて作品を創る手法は、現代の芸術では欠かせないものだ。私の好きなデザイナーやイラストレーターたちは、みんなこの手法を使いこなしている。私が現代美術に対して抱いていた謎が、おもしろいように解けていった。

毎週授業が終了すると、4階の大教室で映画を観ることになっていた。とりあげられる映画は、なかなか日常では観ない映画ばかりだった。ほとんど知らない映画ばかりで、自分の知識の無さが恥ずかしかった。また、自分がどれだけハリウッド映画に依存していたかもわかった。いちばん初めに観たテオ・アンゲロプロスの『永遠と一日』は、私の映画感覚をくつがえすものだった。

約3時間の長い映像のなか、ハラハラ、ドキドキするシーンが少ないまま、私はその映画のなかにどっぷり浸っていた。観終わったあとで、「これで終わり？」と思いつつも、心のなかには充実していた。私はその映像のなかの風景と空間、人物のたたずまい、空気や光や音などに感動したのだ。映画が芸術だということの意味が、この時ちゃんとわかった気がした。

「人形」と「アニメーション」についての講義をうけてから、ヤン・シュワンクマイエルの人形アニメーション映画を観せてもらったときも、以前おなじ作品を観たときと見方が変わっていた。前にビデオ屋さんで借りて観たときには、「この映像は恐ろしい」としか思えなかった

ものだが、授業で改めて観たら、人形の恐ろしさだけではなく、かわいらしさや切なさを感じることができた。

そしてこの一年間、いろいろな映画を観てきたなかで最も感動したのは、マン・レイの全作品だった。映像のひとつひとつが美しく、もうそれだけで涙が流れてきた。また、言葉がなく、そのかわりに流れる音楽(マン・レイの指定によるものだという)が、映像と一体となって私の心をふるいたたせたのだった。もうひとつ、『フェリーニのアマルコルド』も、これからの人生のお手本となる作品だった。私は高校時代から自己表現を抑えながら生活してきた。けどもっと昔には、『アマルコルド』に登場するリミニの人たちのように、オープンな自己表現をしていたように思う。私はあのころの自分のほうが好きだし、輝いていたと思う。この映画を観て、自分の気持を表現することのすばらしさを再確認することができた。

このようなゼミをうけてきて、最後に残るのは卒業論文のみとなった。1年のころから漠然と自分の書きたいことを考えていたものだが、それとだいたい同じようなテーマで論文を書くことができた。現代のイラストレーターとイスラム文化との関係など、いろんなことを考えられて良かったと思う。

一年前の自分を思いうかべると、自分がヒヨコに見えるくらい未熟だったように感じてしまう。今までは美術を中心にいろいろなものを見てきたのだが、このゼミを通して、文学、映画、舞台、人形、庭園などを詳しく学ぶことができ、本当に良かった。幅広い芸術分野にわたる話は、これからの私の人生に大きく役立つと思う。

ゼミのみんなは、一人一人やりたいこと、好きなことのある人が多くて、とても刺激を受けた。また、外での先生の講演会や展覧会でも、ゼミの先輩たちとも交流ができて嬉しかった。そんなみんなに出会えて、私は幸運だったと思う。これからもみんなを尊敬しつつ、良きライバルでありつづけたい。

さまざまなことを教えてくださったり、体験させてくださった先生には、とても感謝しています。まだゼミ旅行が残っていますが、すばらしい旅行にしましょう！

2004年1月